

グローバル競争に日本が勝つために

# 日本の教育を次のステージへ 世界が見つけた「右脳教育」

日本はグローバル競争へより一層、巻き込まれていく。TPP、人口減少での国内市場縮小——海外相手に勝ち残れる人材の育成は進んでいるか？ 答えは否だ。背景の一つは教育の「ガラパゴス化」。受験システムや偏差値至上主義は日本特有のものだ。これに異を唱え、驚く実績を残す塾を追った。

小学生の少年少女達が目を疑うスピードで、積み重なった何冊もの本を次々と読み進めていく。東京・立川の塾、ヘーグル。HEGL代表取締役

# 逸見 宙偉子

(株)HEGL代表取締役



「Kや民放各局が「子どもを天才にする！」などと注目。テレビを始めとした多くのメディアが取り上げている。通う生徒は北海道から沖縄まで、中にはヨーロッパなどからも足を運ぶ。」

一期生以降が続々と東京大学や国立天文学部など難関大学に合格を果たし、世界トップレベルの教育機関へ進学する子どもも輩出している。しかも、部活や習い事、趣味などの好きなことを犠牲にせずに、余力を持った上での合格を実現させる。

運営する(株)HEGLの逸見宙偉子代表は次のように話す。

「世界をリードする人材を育成する」ことが私達の使命であり、難関大学の合格は単なる通過点です。世界をリードする力を身に付けることは、日本の学校教育や多くの学習塾が行う知識の詰め込みでは不可能です」

は遥かに高いところにあるからだ。世界トップ10の大学などは入試時点から、試験一発勝負でなく、三カ月などをかけ選抜される。卒業も難しい。そんなレベルで鍛えられた人材がビジネス舞台上に送り出される。日本には新たな教育が求められている。

「スピード感やひらめき力などずば抜けた能力が必要です。そのための『右脳教育』です。人間が働かせる潜在意識は3%。潜在意識が九七%眠っている。右脳を活性化するとこれが使えます。今こそ右脳・左脳の考えは一般的ですが、二十五年前から研究し進化させ続けてきたメソッドだからこそ、結果が出ます」

## 世界から教室開設希望が続々と 大人も「右脳開発」で仕事に+

驚くことに、海外がヘーグルを見つけ出し、現地での教室開設の希望が次々と舞い込んでいます。すでにマレーシア・オーストラリア・シンガポール・タイで教室ができ、中国・上海にもオープンする予定だという。



は、先進国に追い付こうとグローバル競争に日本よりも圧倒的に挑戦的です。世界中をくまなく探しても、「世界で勝ち抜ける」教育を求めています」

ヘーグルには「大人向けの右脳開発講座」もある。「二カ月前一年分の売上が達成できた」「仕事が好きで受注に追い付けないくらい」など、子どもの成長を見た親と一緒に学び、仕事への好影響について口を揃える。

日本の教育に足りないものを提供する「右脳教育」で世界レベルの人材を輩出し続けるヘーグル。日本のビジネスパーソンを次のステージへ進めてくれる、大きなヒントがそこにある。